

タケノコカワニナ *Stenomelania crenulata* (Deshayes)

【選定理由】

本種は河口部上部の汽水域泥底に生息し、特に本種の分布北限に近い東海地方では、護岸工事の影響が少なく、比較的緩やかな流れ、もしくは止水のワンド的な環境に生息する。西南日本各地に生息記録があるが、現存する産地は著しく減少した。和田・他 (1996) では矢作川河口域の生息記録があげられているが、1997年以降の20回以上に及ぶ調査でも、汽水域の貝類としては大型である本種の死殻さえ確認できなかった。愛知県科学教育センター (1967) で生息記録のある豊川河口域でも、死殻さえ確認できなかった (松岡・他, 1999)。三河湾沿岸の河口域11カ所を詳しく調査した結果でも、生息は確認できなかった (木村・木村, 1999)。その後の調査でも引き続き生息が確認できない。従って絶滅と評価された。

【形態】

殻長約60mmの塔型で殻はやや厚く、大型。成長にともなって殻頂部は欠落する。殻表はほとんど平滑で黒色。蓋は卵形で革質。



三重県員弁川河口域, 2011年1月25日, 木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

県内での生息場所は現在存在しない。

【国内の分布】

日本固有種。本州関東地方以南九州までに分布する。現在では三重県員弁川河口域 (伊勢湾) が分布の北限の可能性が高い (2011年に軟体部と蓋の残った死亡個体1個体が採集された; 図示標本)。三重県志摩半島でも個体数は著しく少ない。紀伊半島 (三重県南西部から和歌山県中南部河口域; 木村未発表試料)、四国太平洋岸、九州南部・西部 (福田・木村, 2012) には健全な個体群が確認されている。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したような生息環境が護岸工事などで破壊された。生息場所が残された場所でも生息が確認されなくなった要因については不明。

【引用文献】

- 愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
福田 宏・木村昭一, 2012. タケノコカワニナ, p. 33.in : 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.
木村昭一・木村妙子, 1999. 三河湾及び伊勢湾河口域におけるアシ原湿地の腹足類相. 日本ベントス学会誌, (54): 44-56.
松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研究報告, (9): 15-24
和田恵次・西平守孝・風呂田利夫・野島哲・山西良平・西川輝昭・五島聖治・鈴木孝男・加藤真・島村賢正・福田宏, 1996. 日本の干潟海岸とそこに生息する底生動物の現状. WWF Japan Science Report 3, 182 pp.

(木村昭一)